THE WOMAN'S WEEKLY
第三巻　第五十一號
大正六年十二月廿一日發行（毎週金曜日發行）
大正四年十一月四日第三種郵便物認可

婦人週報

クリスマス號

□光明の前の暗黑……小橋三四子
□時事週評……
□異教の國にも祝はれる降誕祭……高島平三郎
□私の一日「野口幽香子女史」記……者
□統計に現はれた臺灣婦人の纏足……横山雅男
□扉を叩く者は誰ぞ……オリブ、シュライナー
□宛然一幅の畫……記者
□安住の家無き亡命の露國民……住子
□婦人界開拓者の家庭訪問「麻生正藏氏」……記者
□世界の大戰と子女の教育……久布白落實子
□オハナシ「サンタクロースのお爺さん」……あづま
□最も力を入れる除夜の會合……沼田みか子
□正月の童話……手塚かね子
□流行性發生法……斷雲
□小説 彼と彼女の心……久野菊子
□知識「まろき心」……安中花子
□傾聽すべき音樂……愛城生
□時事……新刊紹介……編輯室より

定價一部四錢五厘 郵税五厘

婦人週報社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

會員募集

裁縫手藝 冬季講習

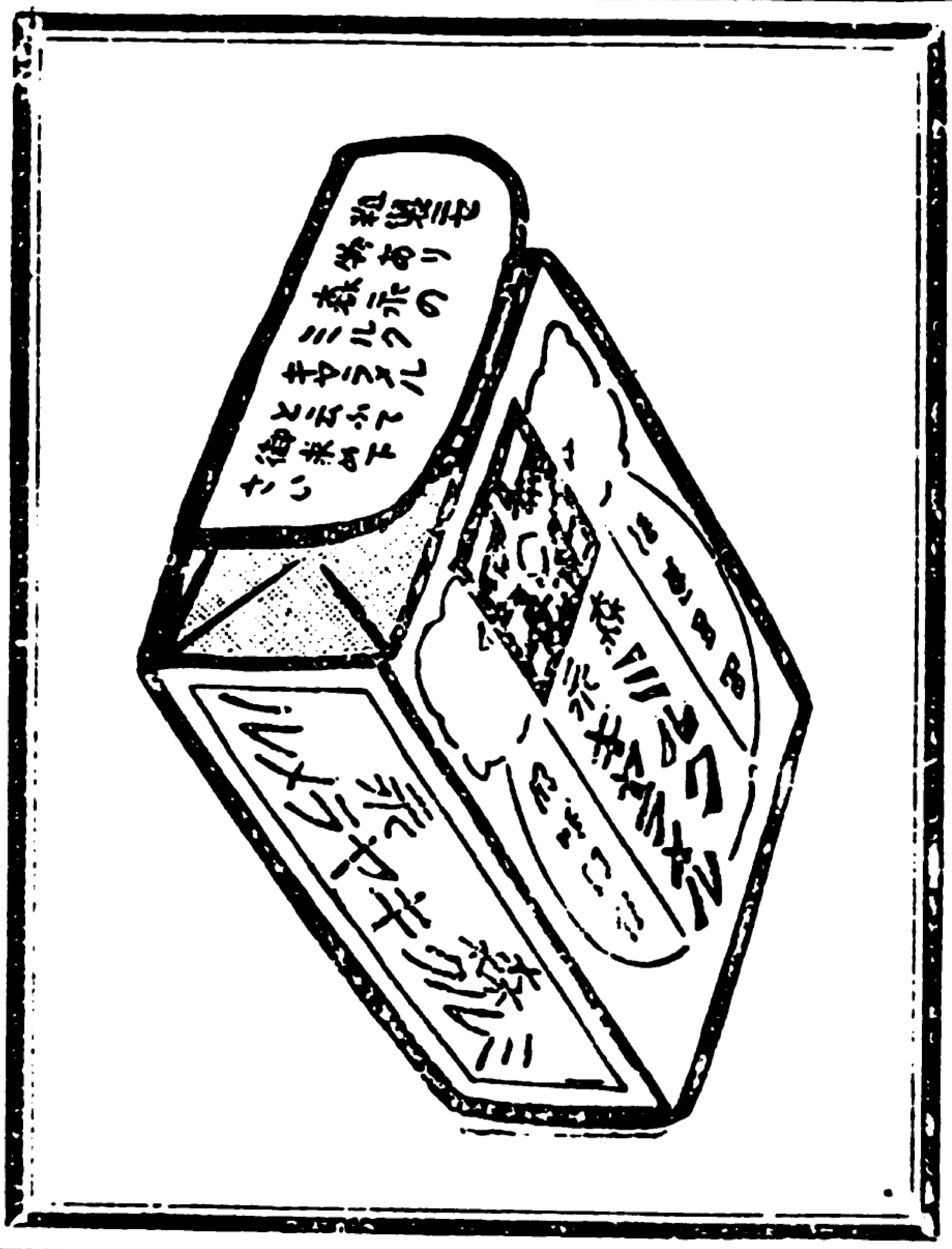
個人教授

詳細會則郵券貳錢を要す

東京市麹町區上六番町七番地

私立 大妻技藝學校

電話番町一二二〇番



◎新年第一の準備は本書を讀むにあり◎

東京家政研究會編

資産を作る家の利殖法

定價金六十錢 送料金四錢

有名なる某博士は本書を一讀して「余は未だ斯くの如き力に滿ちたる物を讀みしことなし、實に千萬遍の大説教にも勝して有益なるものたるを信ず」と激賞しました。また某大實業家は「貨殖の道は何人も知らんと欲して知るを得ざりしところ、今茲に本書を得て何人も資産を作る秘訣を傳授せらる」と評しました。以て本書の價値の如何なるものかを窺ふに足ると信じます。試に内容目次を擧ぐれば、

- 女の腕力で五千圓溜めんとする私の利殖法……きく子
- 夫は官吏を勤め妻は仕立物内職で稼ぐ我家……みえ子
- 三年間に千二百圓の純益を得た我家の發達……千代子
- 内職に學用品を販賣して毎月三十圓の純益……しづ枝
- 十三年間に三萬二千圓の資産を作った我家の經驗……さり子
- 共稼で一萬圓の蓄財に成功せんとする我家……みれ子
- 無一文から十年間に一萬二千圓儲けた實驗……おき子
- 資本なかけずに出來る蓄殖の利益……
- 二百圓の資金を一萬三千圓にする殖産の實驗……
- 一年間に三萬圓の商賣で千圓を貯金した人の年間……
- 夫の遺した借金を返して千七百圓の經驗……
- 殿物を利用して十二年間に三千圓の貸殖……
- 下宿屋を開いて十年間に三千百圓の貯金……
- 四十萬圓の借金を償却する迄の經驗……
- 古着の行商で一萬圓の資産を作った母の經驗……
- 女の力で卅萬圓の資産を作った叔母の經驗……
- 貧民學校の小使をして一家を作った夫婦の共稼……
- 一旦破産した家運を挽回する迄の苦鬪……
- 毎の我培で學資金を作った家の經驗……
- 小學教員の俸から月收三十圓の上に品物の内職……
- 婚禮着を賣り土地を買って數萬の財産を作る……
- 刺繍の終業さり一家の發展の爲に十餘年間の苦心……
- 内職で資産を作った十年間の努力……

發行所 東京市神田區表神保町二 東京家政研究會

振替東京三三七八六番 電話本局二三一六番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

光明の前の暗黒

今年殊に意味深く覺ゆるクリスマス

口主の誕生前と苦境

此處に掲げた寫眞は、星清き夜半、ナザレよりの旅を終へ、漸くベテレヘム邑に入つたマリヤとヨセフであります。アウグスト帝の詔命によつて、各戸籍に登錄しやうと、故郷を指して歸れる人々が雜沓して、何れの旅館も滿員の爲め拒絶されたマリヤとヨセフは、心細い旅情をしみ〴〵と味ひつゝ、夜に入つてなほ宿るべき家を尋ねて歩いて居りました。探ねあぐんだ末終に家無くして、厩の中に疲れた身を横たへたマリヤは、此處に於て産期滿ちて、玉の男の子を生みました。これがイスラエル人を羅馬の壓制な支配權より精神的に解き放ち、萬民に自由、民主の精神の王國を與ふる救ひ主であらうと知る由もない父母は、それを布に裹んで、槽に臥させたのでありました。いまだヨセフに嫁かずして孕みしマリヤは、只管に神慮を畏こんだとは云ふものゝ、世人の誹謗に堪ゆることは、まだうら若き身の、如何計り悲痛であつたでありませう。折も折、産期に近づいて、不便な旅に出で、遂に宿舍もなくて初子を擧げんとしたマリヤは、恐れと憂ひと涙とに心は覆はれて暗かつたでありませう。光明の生まるゝ前の暗黒、そはキリストの誕生に於て、最も強く現はれて居ります。

口暗憺たる世界

近く露西亞の亡命の民を、横濱に見舞ふて、家を失ひ、國を失ひ、歸るべき故郷もなくしてさすらひ出で、見も知らぬ國に來て、一片のパンを乞ひつゝ、僅かに生を繋ぐ不幸な國民を見て、これが十數年前迄は、ピーター大帝の名と共に、世界を威嚇して居つた露西亞國民であらうかと、云ひやうなく痛ましい感に打たれました。未曾有の好況に有頂天になつた暮の街々を歩るきながらも、私は遠い歐洲列國の戰亂地の暗いわびしい國

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

々を忍ばずには居られませんでした。地球上最も早く文化の惠みに浴して、殺伐な野蠻時代を忘れ去つた歐洲は、今や破壞、殺戮の巷と化して、何時安んじて太陽を仰ぎ得るかも計り知られぬ有樣であります。好況に醉へる日本も、心を潛めて其の立場を考へれば、戰慄を感ぜずには居られぬ狀態であります。亞米利加の一少女が夜間未知の空に離れ業を行ひ得るに、我が賴む國家の飛行機は、これより漸く其の修練時代に入らんとして居る有樣であります。國家の最も力を用ひつゝある國防さへも完からぬ今日、他はなほ推して知るべきであります。

□マリヤの如き強き信仰

世界は廿世紀の苦心を經て築いた文明も、其の根底に幾分尺度の誤りがあつたと見えて、一朝にして破壞して終ひました。今や世界は暗憺たる狀態に陷つて居ります。然しては第二の文明の生るべき前の暗黑なるべきを信じて、私共はマリヤの如く強い信仰を以てこの試練を切り啓かねばなりませぬ。昔羅馬の橫暴な軍國主義はキリストの降誕の前に其の力を失ひました。基督教國の戰亂とは云へ、其の內情に立至れば、權力主義に對する正義、自由の應戰であつて、踏みにじられんとした基督教主義の勃興であります。この戰亂の意味が徹底する時、從來從屬の國民の如き地位に在つた婦人の上にも必ず新時代を齎らすべきであります。否既に歐米に於ては、擧國一致の實を擧ぐるに、婦人の力の大なるを認めて、社會の偏見は次第に消えて、新らしい見界は哺まれつゝあります。今や世界の人が女も子供も洩れなく苦惱を嘗めて、やがて新時代の光明の生まるゝ喜びを待ちつゝ、今年は殊に意味深くクリスマスを迎へられます。

（三四子）

時事週評

□**露獨の講話**　伯林公報は露獨の休戰媾和が成つて、十六日より一月十四日迄、兩軍の全戰線に亘る講和が行はれ、なほ近く單獨講和が行はるゝ由と、報じて來ました。さうなれば世界の戰局に一變化を來すべきは勿論であり、殊に露西亞に隣接して居る日本は、其の影響も少なからぬものと思はれればなりませぬ。

□**土砂から鐵を採る**　內務省大阪試驗所長藥學博士平山松治氏は、酸化鐵分を含む土砂から鋼鐵板を採る發見を致しました。缺乏は發明の母とは今更ならぬ事ながら、眞理であります。これが立派に成効すれば、もう亞米利加の鐵の禁輸にも苦しまなくて濟みます。

□**百萬圓の國防費獻納**　船成金として知られたる山下龜三郎氏は、今回百萬圓を國防費として獻納しました。富んでその富をよく使ひ得る人が、眞の富者と申すべきであります。

□**櫻楓會の變つた慈善市**　日本女子大學卒業生の團體なる櫻楓會は、十五日校內に野菜、砂糖、干魚等の日常品を廉價で頒つ市を開きました。この試みが成功して、市場を設くる程に奮發すれば、我が中流階級の生活の爲め、多大の利益がありませう。會としても其の利益を慈善事業に投ずるとすれば、苦しまずして其の資を生み出すことが出來、誠に結構な事であります。

二

□**副牧師の懸賞小說應募**　別項記載の如く、大阪朝日新聞社新築落成記念として募集した、懸賞小說の二等に當選したのは、芝統一教會の沖野副牧師であるのは、珍らしい感を與へます。宗教界の人が、幽閑せる文藝界にも今後力を振ふのは、望ましい事であります。

□**臺灣婦人の纏足減少**　今回臺灣婦人の纏足の統計が發表され、橫山內閣統計官の好意によつて、本誌に揭載する事が出來ました。世界の陋習が年々其の數を減じて行くことは喜ばしい次第であります。但し日本婦人は、稍もすれば新らしく加はつたわが姉妹の事さへも忘れ勝ちに過して居ります。こういふ間近に居る婦人の開拓が、政府の力のみでなく、婦人の靈力によつて行はれたら、愉快でもあり、教化も根底から行はれませう。

□本誌は十二月廿八日及び一月四日發行の分を併せて、一月一日臨時發行致します。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

異教の國にも祝はれる降誕祭(クリスマス)

萬國心を養ふ好機會

高島平三郎

□年中行事の一つ

大戰亂の戰禍を目の邊り見る世界の人は、今や戰後永久の平和を持ち來すやうに、何人も力を藉さなくてはならぬと考へて居る。米のバットラー氏は、平和の第一着手として、先づ萬國心を養つて、風俗、習慣の違ひ、殊に信仰の相違から起る無理解を除くことが大切であると說いて居る。クリスマスは近年異敎の國にも行き亘り、其の日は平生敎會に出入しない者も、キリストの敎へを知らぬ者も、或は祝賀の席に招かれ、或は贈物をしキリストの降誕を祝ふ風習が行はれ、もはや我が國に於ても、立派な年中行事の一つに數へらるゝやうになつた。これは或る側面から見れば、此の日のみはいち早く、萬國の人が風俗習慣宗敎等の外面の相違から起る爭ひを去つて、一つに手を接ぐ美はしい天國を實現して居る譯である。

□戰亂地方に同情の贈物

戰時に在る今日は、平和の日に靜かにクリスマスを祝ふ事が出來る家族と共に、歐洲の戰場に血を流しつゝある者、愛する夫や、親しい父や息子を失つて、わびしく家郷を守る國民の不幸を思ひ、深い同情を注いで、これ等の人々の爲めに祈るといふ精神的の贈物を忘れたくない者である。殊に我が日本は戰爭以來俄かに富を增して、一方に物價騰貴に苦しむ人々の聲をも壓倒して、近年稀れなる好景氣を呈し、稍もすれば人々は參戰國に列る事をさへ忘れんとして居る有樣である。かやうな間にクリスマスを迎へる我が國民は、深く謹んで、萬國民に對する同情を更らに深からしむる事が、順境に在る國民の義務であらねばならぬ。

□子供を愛する立場から

更らに子供を愛する自分の立場からクリスマスを見れば、かくの如く世界的光明を持ち來した偉人の生れた日に當り、たとへ宗敎は相違して居る家庭にあつても、其の日を記念して、事蹟を子供等に語り聞かせ、我れ我れも亦世界的の仕事を營み、人道の爲めに盡すことが大切であるとの念を、深く心に植え付けたいものである。我が國の敎へは最も高い敎訓としても、所謂忠君愛國の外に出でないのであるが、世界の國際的關係が益々密接になつた今日は、萬國心といふやうな精神の成立を促して居るのであるから、單に自國の爲め斗り圖り、狹隘な忠君愛國に固着して居るやうでは、却つて我が國家の敵を作り、これを危からしむるものである。我が君主に仕へ、我が國家を大ならしめんとする者は、世界人類の爲めに貢獻せんとする偉大深遠なる精神を持つ事が主要な事である。今日の敎育に於て、最も大切な敎訓の一つは實にこの點にあると考へる。

□世界的人道的の精神

キリストの降誕を祝ふは、キリストの如くに世界の人類の爲めに盡す精神を請け容れる事であるといふ念を第二國民によく〳〵吹き込みたいものである。我が日本人は今日世界の列强と云はれて居るが、何を世界に貢獻して居るか、世界から日本を引き去つたら、どれ丈けの缺陷を感ずるか、いかに贔屓目に見ても、我が國民の世界に大を爲す

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

所以は、一つもないのである。將來もしもこの狀態が續いたならば、何を以てか國家の地位を高め、國民の品位を貴からしむる事が出來やうか。各家庭に於てクリスマスを祝ひ、もしくは贈物をする機會に於て、よく二千年の昔に愛と正義を以て、世界人類の爲めに罪なき身を十字架上に犧牲としたキリストの精神を理解せしめて、偉大なる道德的要素を味ふ事に務めたいものである。なほ教會其の他公共の場所に於ての記念祭にしても、狹隘な偏見を捨てゝ、國民的、世界的の立場からいかなる宗教を信ずる家庭の子弟に聞かせても、承認すべき態度の下に話をして、皆樂しく、打解けて此の日を祝ひたいものである。

四

私の一日（十）

野口幽香子女史

――師走の月を須磨に見んと――

▲學習院幼稚園の主任にして、貧兒の爲めの二葉保育園の創立者である野口幽香子女史を、千駄ケ谷なるお宅へ訪問した。これから教會へお出かけにならうといふ日曜日の朝であつた。水晶の樣な霜柱が、軟い黑土の上に消えなんとする運命を、明るい日光に晒して、代々木の原は美しく靜かであつた。厚い信仰生活を送らるゝ女史のお住居は、さぞかし聖畫や十字架に飾られてあらうと、通さるゝまゝに記者の眼は周圍を見廻した。けれども其期待も想像も無駄であつた。床には二つの短册を表裝した掛軸が掛つてる。一は「たく程は風がもてくるおち葉かな」も一つは「時雨るゝやいつ迄赤きからすうり」そして其前に釣りいけにされた淋しい枝のみの先に、たつた一つ赤い〳〵柿の實がついて居た。ほんとに此句と此柿たつた一つとが何といふいゝ對象であらう。

野口幽香子女史

▲六疊の室の中央には小さい爐が切つてあつた。野菊の可憐な投げ挿しといひ、どこ迄茶人であらるゝか分らない。「なに私お茶なんからつきし知りやしません。藝能も一つも持つてはしませんよ、たゞ人樣の句を求つては悦んでる方なんです。」爐の中へ火をつぎながら、女史は輕い爽かな調子で語られる。禪味を帶びたものが何でも好きだと仰有つた。そして床の間の始めの句を指し、「あれが私の凡てなんです。ネーお分りでせう」と微笑まれながら目鏡の眼を一方の壁の方へ向けられた。

▲そこに白樂天の詩「晩秋閑居」の一句が掛けてあつた。もう時候違ひでをかしいから、取換へませうと仰有りながら、新しい色紙を取り出された。それには「捨てゝあり月や師走の須磨の浦」と書かれてある。これも人のですが全く私の意を得た句です。暮だと云つて俗人達が齷齪して捨てゝある須磨の師走の月を、私は此冬休みに行つてあかず眺めたいと思つて居ります。そこで私が「ひとり見る月や師走の須磨の浦」と剽竊して會心の笑を洩らして居る次第なのです。

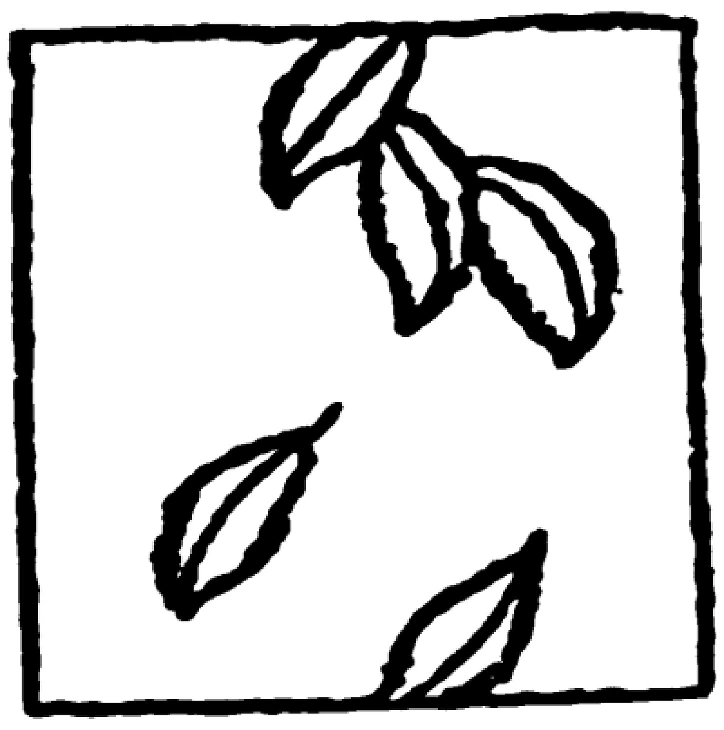
▲斯う話をして居る時、隣の襖がさつと開いて、女史の令姪が須磨に在る母人から送られた月見草とコスモスとを硝子器へ生けて持つてゐらつした。「冬の月見草は背が低くて愛らしいものです」と女史は嬉しさうにかう云つて卓の上へ置かれた。花の色は餘り明るく鮮かでない處にほんのりとしたらしさを含んでゐた。須磨の浦から運ばれた月見草は、句と相俟つて部屋の中の空氣としつくり溶け入つた樣な氣がした。

噂

▲故元良博士の母堂杉田すが子刀自は、七十餘歲迄、女子大學の寮監をされ、新らしいお婆さまとして、若い女學生等に愛されて居られたが、去る五日八十四歲にして大阪浪花教會牧師なる令息潮氏の許で亡くなられました。▲氣丈な老刀自も近年は少し老耄せられて、令息夫人を指して「こちらの奥樣は誠に御親切なお方で」と頻りにお賞を云はれたりしたと申します。然し無意識の間にも仲の美はしかつた嫁と姑との間を語つて居られたのは、幸福なお婆さまであつたと知る人は申し合つて居ります。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



統計に現はれた臺灣婦人の纏足

世界稀有の陋習漸次改まらんとす

內閣統計官 横山雅男

歐洲婦人がコルセットを用ゐるのと、支那婦人が纏足するのとは、共に非天然的の行爲として世に名高い事象である。

支那に於ける二億餘の婦人中纏足して居る者の數が若干であるか能く別らない。是はすべての統計の調査が行はれぬ同國では、無理ならぬ事象と思ふ。然るに臺灣總督府では此程第二次の臨時臺灣戸口調査累計原表を公にされ、隨つて同島に於ける婦人の纏足狀態を統計で知ることが出來た。

一國の靜態人口を完全に、正確に、且つ系統的に知るとを得るのは、特りセンサス（Census）ばかりである。臺灣總督府では同島に於ける靜態人口を、此センサスの形式で其の第一回を明治三十八年に施行し、第二回は十年後の大正四年に施行された。前に述べた第二次の臨時臺灣戸口調査累計原表と云つた書物は即ち大正四年に施行されたセンサスの結果表の一つである。同書に據ると大正四年十月一日現在の纏足婦人は、其の總數二十七萬九千三十八人である。更に之を其の種族、年齢、縁事、身分及職業に分けると次の如くである。

一　種族別

臺灣人					
漢人 福建	漢人 廣東	漢人 計	熟蕃	合計	
二七、七七八〇	五一七	二七、八二九七	三八	二七、八三三五	

支那人	七〇三
總計	二七、九〇三八

二　年齢別

十歳以下	一三八五
十一歳乃至十五歳	六〇六七
十六歳乃至二十歳	一、六五五九
二十一歳乃至二十五歳	二、〇八一〇
二十六歳乃至三十歳	二、一七〇五
三十一歳乃至三十五歳	二、六六四八
三十六歳乃至四十歳	二、六七五七
四十一歳乃至四十五歳	二、七三五三
四十六歳乃至五十歳	二、五四八六
五十一歳乃至五十五歳	二、四五一一
五十六歳乃至六十歳	二、五三四八
六十一歳乃至六十五歳	二、一〇九五
六十六歳乃至七十歳	一、六〇〇四
七十一歳以上	一、九三一〇

三　縁事身分別

配偶者	二、三七一六
未婚者	四五四
離婚者	二一五
寡婦	二二六三

四　職業別

	本業者	從屬者
農業牧畜林業漁業等	六、二二〇〇	一一、一三三〇
工業	一、〇一一七	二、〇一三四
商業及交通業	三六一八	三、五八八六
公務及自由業	一〇二	五二二一
其の他の有業者	二二六一	一、七〇四七
重もに其の收入に依り生活する者	一八二二	八一八五
無職業及職業を申告せざる者	―	二一五

右に據ると種族別では福建人が最多數を占めて、他は殆ど云ふに足らぬ程少數である。是は云ふ迄もなく福建人が總體に於て非常に多いからである。

年齢の上から見ると四十五歳までは、年齢の長ずると共に其の數を遞加し、四十五歳から遞減して居る。是は人口の分配と相伴ふものであるが、十歳以下で千三百餘人を示して居るのはたとひ纏足が幼年の時に都合が好いとは云へ、誠に哀れな事象と思ふ。

縁事身分から見ると、總人口に於て配偶者が百三十萬餘で、未婚者が百八十八萬餘にも拘はらず、纏足の配偶者は二萬三千七百餘で、未婚者は僅に四百五十四人である。して見ると纏足は主として配偶者に行はるゝこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とか判る。職業の上から見ると農業牧畜林業漁業等に從事する者は、其の本業に於ても從屬者に於ても最も多い。是は總人口の分配に於て、此種の職業者が最も多いからである。併し商業及交通業者は、其の本業者と從屬者との割合が、農業牧畜林業漁業等に從事する者と大に其の趣を異にして居るのは、一は概ね日常家に居るから纏足するも左まで不都合を感ぜざるも、農業牧畜林業漁業等に從事する者は、野外に活動せねばならぬから、自然の必要上纏足をせぬことが其の原因であらう。

臺灣が我が帝國の領土となつてからは、當局者が天足會を設け、或は訓戒するなど、百方非天然的行爲を防遏するに努力した結果、纏足婦人の數が大に減少した。即ち前に掲げた如く大正四年の纏足婦人總數は二十七萬九千强なるに、十年前の總數は八十萬餘である。新領土たる臺灣が我が治下に入つてから、種々島人が幸福自由等を得たが世界稀有の陋習たる纏足婦人が大に減少したのは、誠に喜ばしいことで、且世界に誇るべき一大快事と思ふ。是れ畢竟　皇化の普く光被したのと、當局者の指導其の宜きに因つたことゝ信ずるのである。

扉を叩く者は誰ぞ（上）

オリブ、シュライナー

シュライナー女史はかの「婦人と勞働」の名著によつて、其の名を世界に走せた婦人問題の研究者であります。左の一篇は最近の英國の「隔週評論」の卷頭を飾つた夢物語であります。

私は寢臺に橫たはつてゐた。戶外には、連日の雪が重々しく降りしきり、露臺を蔽ふ薔薇の葉は凍つた雪に包つて、吹き荒ぶ風に此處彼處と搖られてゐた。

此の物淋しい戶外を見るとに倦んだ私は、起き上つて窓掛を引き、枕邊の燈火を點けて、夕刊新聞を讀まうと再び橫になつた。

それは、夜毎に讀ませられる古い〱話ばかりであつた。死とそして破壞、相變らずの敵軍大敗、心を刺される長い〱戰死者の名簿、次には嫌忌すべき惡事醜行の幾くだり、平和な時には見られぬ雜多の記事、間違つた事や壓制な話。しかも其の頽廢の中で、小さい動物が光明の閃めきを見出さんとする如き暗中模索の心や、除外され否定された處にこそ眞實がある不當な裁判や——それは總て古い〱話ばかり、其處に一つの新聞も無かつた。

私は、他のことに心を向けやうとして、新聞を床の上に落しかけた時、內頁の左隅に、極めて小さい活字で出てゐる一項に目を着けた。多くの讀者が氣付かない程小さな、而も若し氣付いたならば造作も無く解るやうなものではあるが、兎も角も其は新聞であつた。而して夫れを一度讀んだ者は、二度も三度も讀み返すに違ひない程、讀者の心を遠く旅させる樣な記事であつた。

私は、その新聞を握つたまゝ、速に眠らなければならぬと思つた。何故ならば、私は大きな森の中にゐるやうな氣がしたから。兩側には、恰度大きな寺院の脇道のやうに、樹の幹が聳えて居た、風に揉まれる樹々の枝が、相摩して打折るやうな物凄い音が、高く頭の上から聞えて來る。私は、頭から確かりと外套を冠つて、暗闇の中で踠いた。其處には死んだ木の枝が私の脚下に落ちてゐる。恰も私達が今の如うに全歐羅巴に擴がる前に、私達の祖先が休息所とした原始的な森林の如うに見えた。

此の測り知れぬ暗黑裡に彷徨ふうちに、私は、遠い〱彼方からかすかな燈火の閃めくのを見る樣な氣がした。而して、森のざわめきや暴風の叫びとは異ふ樣な遠い物音をも聞いた。それから、私は、其方へ進まうとして踠いたが、終々、闇の中に架けられた橋のやうな樹木の下に出た。其處には、恐らしく宏大な建物が、朦朧と立つてゐて、色々の色彩を有つ窓硝子から燈の光りが流れてゐた。歡喜と喝采に醉つた如うな人々の、歌や樂音が高い笑ひ聲や叫び聲に絡れて聞える。

（第九頁につゞく）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

宛然一幅の聖畫

ニコライ教會堂の聖地奪還の感謝祭

基督教の聖地エルサレムが、最近の戰で土耳古より英軍に奪還されたといふ事は、彼等の上にどんなに幸福を感したかはかり知れない。回々教徒の手より五百年經て戻された歴史ある地に、このクリスマスには久し振りで昔の如く聖徒の禮拜が行はるゝ事である。やがて其歡びに集まる同志一千名は、去る十六日の日曜日を期して、神田駿河臺のニコライ會堂に於て、盛なる感謝祭を擧行したのであつた歡びの太陽の輝く午前十一時、大伽藍の中は感謝にむせぶ信者もて滿たされて居た。燦としてかゞやく金色の聖畫 無數の燭の光は崇嚴にまたゝく。鐘の音は絶えず響いて場内はさながらエルサレムに在るの心地せらる露英佛伊等各國の大使をはじめマリヤの像から抜け出でた樣な美しい金髪の人が、互に十字を切つて聖畫を拜してゐた。

ニコライ教會堂の
聖地奪還の感謝祭の日

詠唱隊がかなづるたえなる讃美歌のコーラスに、聖壇の奥なる聖畫も搖るゝかと許りに、歡喜にむせぶ。セルギー大主教は金色の祭服に王冠を戴き、壯嚴なる禱を捧げた後、馬太傳中の數章を露語と日語にて朗讀終つて感謝祝文の朗讀があつた。滿場は水を打つた樣に靜かであつた。時々鼻をすゝる音とすゝりなく音、そして感激の涙を拭ふ婦人もあつた。

想へば半月旗の下に多年不遇を喞ちし聖地の復活は、ほんとに意義深い事である。ほの暗い燭光のもとに立つた長身の主教が持てる十字架を押し戴き、十字を切つて歸り行く群衆の敬虔な態度と四邊の光景とは、宛然一幅の聖畫であつた。

七

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

安住の家無き亡命の露國民

ゴルギーの「どん底」を思はせる横濱のホテル

＊＊

謎の國、ロシヤの運命はどうなるのであらう、前皇室は如何に、花の如きタチアナ姫は男裝して、異鄕の空にさまよふとさへ聞いて居る。故國の政變に、きのふの志士もけふは路頭に迷ひ、年餘もさすらひ歩いた民等は米國に出稼ぎしやうとして、其の航路を急ぐ折しも、船腹は不足を告げ、あたら旅費も盡きて、よるべなき身を相抱いて泣く哀れな流浪者が、日に〳〵横濱の港へと運ばれて來る。溫かさうな毛皮に包まつた、美しいボンネットに飾られた、金髪婦人の後に續く、いたましい人々を町往く人は何と見るであらう。眼は疲れ、艶は失せ、色褪せた、破れた薄服をまとひ、すつぽりと被つた黑布の姿が、そゝろ樣なクリスマスデコレーションの飾窓を覗いては淋しさうに過ぎて行くではないか。彼等は山下町八十七番ローヤルホテルの扉を排して、其淋しい姿を消すのである。

＊＊

記者は或日その哀れな異國の人々を訪ふべく、同じ扉の中に入つたのである。入口の石段の上に、無心の子供は嬉々として戲れてた。手には他から惠まれた駄菓子と、風船玉とを持つてた。破れた靴と、破れ汚れた水色の水兵服とがいたましくも小さな體を包んでた。愛さうにも、慰めやうにも、言葉は通じないのである。私は其の軟かいむつちりとした頰を人差指で突いて上を向いてみた。碧色の瞳は笑つて居た。父は何處に母は如何に。恐るべき國の戰ひは、此小さき者の上に迄、冷酷な手を延べて居るのである。

＊＊

直左手の室には、今着いたといふ樣な、大きな毛布の包がいくつもころがつてた。ベッドの傍に巡禮のルカの樣なお爺さんが、一心に祈禱書を讀んでる。私は「どん底」を目のあたり見た。覗よその額の皺と白髪と、垢で光つたその服を。私はなほも進んだ。階段の處でよごれた毛絲の肩掛に包まつたお婆さんに逢つた。手をさし出せば、お婆さんはにつこりとして握つて振つた。老ひたる人よ、何たる事ぞ！ 私は胸に涌き出づる同情の言葉を注ぎかけた。たとへ言葉は通せずとも、心を讀んだお婆さんは、欣然として過ぎ去つた。階上には物を煮る油の香が漂ふてる。黑色のむく〳〵とした帽子を破つた子供、毀れた玩具を持つて嬉しさうに刎ね廻つてる子等の群れは、恐しい運命の中に自ら在らうとは知るよしもない。そを見詰むる母らしい人の顏は、淋しい皺がいく筋も刻まれてた。

＊＊

私はふとある扉を入つた。そこには、病める一婦人がベッドの中に深く蹲まつてた。彼女は稍身を動かして、巧みな英語を使つた。私は熱の有無、醫師の來診を受けたか否かを問ふて見た。病氣はほんの風邪位だが疲勞が主であると答へて、彼女は蒲團の中に頤を埋めてた。卓の上には茶色に瓣の枯れかゝつた薔薇の花がコップの中にうなだれてた。彼女はミスパフマンと名のつた、彼の話に依れば、此家の中には三百人近く收容されてる、多くは老人、病人の他は、婦人と、子供である。子供は七十名程居るといふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

＊＊

彼等流浪者を見兼ねて起つたのは、領事令嬢ミスレビインスキーである。嬢は此のホテルを公園や軒下に雨露を凌いで居つた亡命の露國民の爲めに給したギンスボイレイ氏の慈悲をほんとうによく徹底して行く唯一の働らき人で、終日内に外に至らざるなき斡旋を務めて居られる。私は嬢に面會しやうとつぶさに索し歩いた。逢ふ人毎に手眞似見振りで少しも要領を得ない。私は人の氣はいのする方へと尋ねて行つた。一つの扉が開いた、中からは目の大きな、豐麗な若い婦人が出て來た。それはほんとにカチウシヤの樣にも思はれた。彼女は私の前へ立つた。其瞳は華やかに笑んでゐる、其唇は紅く燃えてゐた。白い前掛と色褪せた着物とは。そゞろに若き身に悲哀を包みおゝせぬ感がする。私は問ふた、彼は手で下を指した。私は下の監理者らしい人に問ふて見た。

忙しい、レビインスキー嬢は遂に此日は留守であつたのである。いたましい光景を後に扉を出づれば、景氣のいゝ音をたてゝ、自動車が砂煙を蹴て過ぎた。同時に、眞白い毛皮に包まつたあて人の印象が私の腦裏へ烙きつけられた。（佳子）

扉を叩く者は誰ぞ（中）

（第五頁よりつゞく）

オリキブ、シユライ

遣ふやうにして建物に近付いた私は、小窓の硝子に顔を付けて、内の容子を見た。それは實に驚嘆すべき光景であつた。内には、贅澤に彫刻された木や、色々の美しい型の柱で出來てゐる、非常に大きな廣間があつた。高い天井の中央から釣り下げられた無數の燈明と、壁に沿ふて置かれた多くの火把の光りが、種々の美術品や、數多の卓が散在し、ピカピカする結晶體や、金銀製の器物で一杯になつてゐる會堂の中を、眩いばかりに照してゐる。

テーブルを圍んだ、華美に著飾つてゐる男や女の中には、金の冠りを戴いて、王笏を腕に有つた者や、貴重な石を重々しく彫めた金の寶玉で身動きもならぬ樣な女達が居た。

それから私は、卓から卓へと交換されゐる、料理の數々や酒の色々を見た。彼方の卓から此方の卓へ歌ひ踊る男女の上に、饗應の人々が、金色の寶物を雨の如うに撒いた。それから又、自分の胸の飾り物を取つて、他の卓の人々に與へる者も見えた、けれども、皆んな異つたテーブルに付いて居ながら、身裝も顔付も全く同じであるのに氣付いた私は

『慥かに、是は、大親族の祝ひの宴會場に異ひない』

と思つた。而して又

『此麼に贅澤な珍奇なものが、一つ所に寄り集つた事は、開闢以來初めてだらう』

と思つた。曾ては樹木のみ生ひ茂つた森林に、此麼ものを持ち來つた人々の勞力を考へた時、私は眞に驚嘆せずにはゐられなかつた。

そして其時、彼等の腰に、短刀が佩ばれてゐるのに氣付いた私は、異樣に思つて熟々觀ると、唇に笑みを湛へた彼等が、眉を顰めてゐる樣に見えた。卓から卓へ廻される御馳走物に、妬みの眼さしを向けてゐる者もあるらしかつた。更に又、互に眼と眼で知らせたり、掌を耳に當てゝ私語いてゐる者さへある樣に見えた。そして、相變らず舞踊や歌や饗應が續けられるにも拘らず、私は、多分皆んな其麼に仲が良いのぢやあるまいと感じた。

而して其時、私は殆んど何が起つたのか解らなかつた。奥の方の卓にゐた或者が、腰の短刀を拔いたかと思つたら、男と女が一人宛刺し仆された。續いて、他の卓の人々が立ち上つて、互に刺したり投げたりした。それから又他の卓の人々が總立ちとなつて、突き合ひ倒し合つた。さしも廣い大會場の隅から隅まで、血の流れか溢つて、死傷者の骸が床の上に充滿するまで、互ひ〲に突き合ひ投げ合つた。卓は引繰返された。酒や御馳走や、ピカ〱光る貴重な裝飾品、美術品が、遠慮會釋もなく、掻き落され破壞された。而して私は、その破片を捉へて矢鱈無精に打突け合ふ彼等と、窓硝子の毀れ落ちる狀や、ギザ〱に傷けられた壁を見た。女達は、と見れば、馬の如うな野蠻な聲を張り上げて、もつと殺せ、もつと倒せと、男達に叫んでゐた。而して女の或者は破片を投げ合ふ男の側へ行つて、屢々彼等自らも、屍の山の中に葬られた。（十二頁につゞく）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

麻生正藏氏とその家庭

▲冬枯れの櫻の並木が正門からずつと續いてゐる、幼稚園から大學部までの生徒が、其間を縫つて遊び戯れてる。黄色い日にてらされた講堂の赤煉瓦は、巨人の樣に白い運動場に臨んで立つて居る。目白なる女子大學の潔い明るい空氣に浸つて、自分の足はゆくりなく進む。そこには新しい家政學館が、新しい學理を腹中一杯に秘めて建つて居た。畑の花はうなだれて、春迄は甘い眠りをむさぼらうとしてた。寮の間を拔けてだら〳〵の細道を垣根に添つて行く、繪の樣な森や耕地が、黑く青く點綴されて、行き惱んだ雲は低く垂れ下り、遠くに密着して居た。偉大な自然の美よ、幸福な學生達はもうそんなものは見飽きたといふ風に、つゝゝと下を向いて行き過ぎてしまつた。

▲かうした詩境に、寮舍と屋根を並べて麻生先生のお宅も在るのである。成瀬校長は慈父、麻生學監は慈母、敏感な學生等はいつの頃よりか斯う稱へてしまつてる。ほんとうに先生は慈母に違ひない。休みが來ても祭日が來ても、空巣になつた學校の中に先生だけは居殘つて居られる「避暑だの避寒だのと、そんな必要は私にはないから……」夏の暑い頃先生は御書齋でから仰有つた。勤勉な先生は沈着に靜かに、ぢつと物事を見て居られる。過去十七年間、創立以來の學監として、先生の頭腦には種々雜多な印象を止められたに違ひない。

麻生正藏氏

▲「物事はみんなこうしたものだよ」どんな事件にぶつかつても先生は靜なおちつきをもつた心で生徒をさとして下すつた。新しからず古からず、恰度其中間を行かうといふのが先生の主義である。温厚な女子の教育家として孜々鞭韃せられた先生の努力と厚志とは、今や女子大學の隆盛と共に、十數年の熱い叫びは、我國女子の上に開拓をもたらしたのである。女子に教育の眼を見開かせたるは誰人、其生涯を女子教育に捧げて、しかも具體的微細に渡つて當局に當らるゝ、麻生先生の如きは、その鼻祖である。先生は更らに時勢と共に、婦人問題の研究の疎かにすべからざることを悟り、諸名士の間々說きて、婦人問題研究會を組織し、昨年來、熱心その研究の歩を進めて居られる事は人の知る處である。

▲先生は家庭に於かれても、極めて平和な主人であられる。不幸にして先夫人は故人と成られた、けれども先生と主義主張を同じうせらるゝ永子夫人を迎へて、家庭は圓滿である。先日來永子夫人は病を得て入院の止むなきに至られた事は同情に堪へない。同校内の小學部に通はれるまんまるい坊ちやんの愛らしい姿が、家庭を賑はして居られる。長女の春子さんは同校の英文科を卒へられて、滿洲の方に嫁された。「先生お寒い時など御心配でせう」と云へば「なにどこに居ても同じぢやが、まあ近い處の方が好いね」と子煩惱な先生らしい本音を吐いてゐらつした。淋しい先生を慰むるべく夫人の恢復の速からん事を祈つて筆を擱く。

此の項は皆樣の御稱贊を博しましたが、本號を以て終りと致します。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

世界の大戰と

子女の教育

―今後心したき事ども―

久布白落實子

□先づ國防を第一に

飛行機、潜航艇が戰爭に盛んに用ゐらるゝ今日は、恰も中世紀の初め、羅典人が固守して居つたコンスタンチノープルを、土耳古軍が放つた幾發かの大砲によつて難なく陷落せしめ、築城法に一變を來したやうに、軍備の上に、一大革新を促さなければ止まぬ狀態に差迫つて居ります。頑是ない子供等迄、「もし飛行機から爆彈を投げられたら、母さんどうする、亞米利加に行きませうか。」などゝ申すのに、母も安神を與へる言葉はありません。先頃の暴風雨にさへ、完膚なき迄に傷ついた帝都の建物は、一朝爆彈を投下されたら、避難する地下室があるではなく、マッチ箱のやうに脆弱な家は、一と堪りもありますまい。かうした不安の念は、丁度黑船の襲來當時の如く、人心を脅かして居ります。子供等には「逃げるなんて弱いことを云つてはならない。お前方が强くなつて、國を守らなくては」と申して居りますが、國民は血稅を拂ふ積りになつて、このめまぐるしく進む工藝の進步に相應じて、先づ國防といふ事を考へなければなりませぬ。國防が完全に行はれなければ、國家の獨立さへも保障する事が出來ないので、國力の發展はをろか、私共の不安の念さへ取去る事が出來ないのであります。

□我が政體を知ること

今日日本の識者の間にすら、英米の正義、自由の爲めに劍をとるといふことを贅澤の言葉の如くに考へ、彼れ等も利害關係に及べばどう豹變するか解らぬといふ疑念を洩らして居ります。而して單に英吉利に對する友誼上聯合軍に加はり、政府は軍國主義でありながら、一方聯合軍側の民本主義に力を藉して居るといふ有樣で、一向に國是が定まつて居らぬのです。それ故何が爲めに戰つて居るか、また何が爲めに戰はねばならぬかゝ少しも明らかに解つて居らぬ云はゞ五里霧中に彷徨ふて居るのであります。戰時に際して却つて日本は金が儲かつて一時は結構のやうではあるが、この自覺なき國民の前途は、どうなるものでせうか。今後子女の教養にも、その邊をもつと明らかにして、力の入れ處に無駄の無いやうにしなければ、國家の安心立命も得られぬ譯であります。

□新らしい忠君愛國の念

それには我が國民はもつと立憲君主政體といふ政體を明らかにして、忠君愛國の念を徹底せしめなければなりませぬ。亞米利加邊では、夕刊賣の小僧等迄、大統領の選擧と云へば「私は民主主義に贊成だから、誰れに一票を投ずる」とか「私は共和黨だから、誰れに贊成する」とか云ふ意見を持つて居りますが、日本では高等教育を受けた婦人であつても、お恥かしい話ながら、現内閣がどうやら、どういふ政見を誰れが抱いて居るやら、一向知らないで、或る一部の政治家によつて、政事が運用されて行くのみです。これでは少しも立憲の意味が徹底して居りませぬ。私共は國家を我が家の如く、親しいものに感ずるやう、もつと國體、政體の研究を心掛け、政事家でなくとも、國政の責任を多少なりとも負ふやうにありたいと思ひます。忠君愛國の念にしても、今迄我が皇室は雲上高くゐまし給ふて、私共の意志の通はぬ處として、只何となく有難いものに思ひ、忠

十一

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

義を盡すべきものとして居つたのでありますが、今後は家庭に於ける子供等の朝夕の祈りにも、我が統治者としての庇護を感謝し、我が皇室を眞に愛敬する念を養ひたいものであります。たとへ世界が聯邦になるやうな事があつても、私共は陛下を通じて其の意志が世界に通ずるやうに用意して、初めて如何なる世の劇變に遇つても、其の立脚地を失はずに進み得るのであると存じます。

□全人の發達

今後の國民は全人の發達を心掛けなければなりません。例へば兵士にしても、單に飛行術や砲術に長ける斗りでなく、禁酒・禁煙・貞潔等、道德的に廿世紀の甲胄を着せる必要があります。飛行機上から艶書を投げるといふやうな、不眞面目さでは、とても强兵は覺束ないのであります。其の他工業家も、商人も、學者も、人間としての高尚な品位を備へなければ、其の技術も、富も、學藝も、國家の力とするに足りないといふことを、よく〱腦裏に刻みたいものであります。此の點は殊に幼兒から母が其の膝下に祈りつゝ子女にさやうな精神を養成する事が大切であらうと思はれます

扉を叩く者は誰ぞ（下）

（第九頁よりつゞく）

オリブ、シユライナー

『およしなさい〱解らないんですか！何も彼も打ち壊れて終ひますよ』

私は、破れた窓から手を振つて叫んだ。けれども其れは、森の樹のざわめきの中では、餘りに小さな葉の叫びだつた。否、どんな聲も叫びも、彼の大騷動の中では、ほんとに小さい言葉に過ぎなかつた。

尚ほも猛り狂ふ彼等は、廣間の中央に釣り下つてゐた大燈光を曳き卸して、其破片を打付け合つた。壁に着いてゐた火把を捥ぎ取つては、互に撲り合つた。床の上に充滿せる煮らるゝ屍の上に、其等の火が落ちた。焔は忽ち、死人の衣から上つた。そして私の立つてゐる戸外まで、燒かれた人肉が飛んで來た。

私は、怖ろしさに、聲も出なかつた。眞に、人が人として此の世に來て以來、同類同族を會せる此のやうな大會場に於て、此のやうに恐ろしく大きな破壞があつたであらうか。

私は猶ほ、內を見守つて佇んだ。よくは分らない。然し何だか、會場の奧の方、大きな破れ扉のあるあたりから、三ッの、緩やかな、はつきりしたノックが聞える。耳を澄すと、再び叩くその音、今度は慥かに——緩かな、明瞭なノック……。

むごたらしい屍の上を通して、よく〱見れば、その大きな破れた扉の隙子から、覗き込んでる人の顏—。間もなく立登る煙に見えなくなつたけれども、私は確にそれを見た。

焔は壁を這ひ上り、彫刻柱を嘗め、そして屋根にまでも燃え上つた。

それから、私は、外套を確かり頭に蓋つて、夜の闇へと引返した。今しがた見た慘憺たる光景を思ひ浮べながら。何故彼等は、非常な奮闘努力によつて建設し、蒐集したあれ程のものを、我れと我が手で破壞したのであらう。あんなに珍らしい美しいものを、左樣する外に、良い途はないのだらうか！。私は、嘗ては其麼に威大で有り勇敢だつた彼等の爲めに、悲しまざるを得なかつた。若しも、私の聞いた彼のノックの主が入つて大宴會に席を占めたなら、其をもつと高貴な美はしい會合に改めたであらう。唯一つの同族のみでなく、總ての同類を集めた會場と爲し、彼等の飲んだ酒は決して彼等を狂氣にしなかつたらう。而して又、あの宴會に臨んだ人々の腰に何一つの武器も見出さぬであつたらう。

私は、あの大同族の破滅を思ふ悲しさに、闇路をよろめき歩みながら、痛ましく泣いた。

原始的の森林の樹木は、恰もノックする如く『狂！狂！狂！』と、私の頭上で叫んでゐた。

* * * * *

私は目醒めた。私は矢張り、枕頭に燃える電燈の下で、寢床の上に横たはつてゐた。手に持つてゐた新聞は、胸の上に落ちてゐる。荒れ狂つてゐた戸外の風は靜つて、露臺の薔薇の枝はそよとも搖がない。私はその靜けさに耳を傾けた。

軈て再び、夕刊新聞を取り上げて、內頁の左隅の彼の小さい記事を讀み返した。私の心は、遙かに遠い〱將來へと遊んだ。（完）

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

サンタクロスのお爺さん

あづま

春子と兄の一郎とはどうかして一度でいゝから、サンタクロスのお爺さんに遇ひたいものだと苦心してゐました。

「ネー兄さん、あたしお爺さんが見たいわ、一寸でいゝから、やつぱり畫のやうに赤い衣服を着てゐるんでせうか？」

「春チャン、兄さんも見たいんだよ、去年はとう〜見そくなつてしまつたんだもの、ずゐ分我慢して眠らないでゐたんだけれど、いつの間にか寝ちやつたんだ。起きたときにはチャンとお爺さんのお土産物があつたんだもの、ほんとに殘念しちやつた……」。

と兄が申ますと、妹は、

「兄さん〜今年はお母様にお願ひして寝ないでゐませうか」

「それがいゝや、ぢやお願して來やう!!」

とお母さんの部屋に參りましたお母さんは丁度明日のクリスマスに春子が着てゆく衣物のあげをしていらつしやいました。

「お母さん!! お願ひですから今夜寝ないでもいゝでせう」

と申ました。お母様は何の爲に寝ないで居やうといふのか、お尋ねになりました。兄妹はサンタクロスのお爺さんに遇ひたいからと云ひますと 母様は多分遇へまいとお仰ました。そして、

「サンタクロスのお爺さんはね、おとなしく寝て居る子供が大お好き、キラ〜光るお星様も晝間は靜かに雲の中でおねんねしていらつしやるやうに、一郎も春子も夜はお床に入つて靜かにおやすみ、そうするとお爺さんが「アヽいゝ子が寝んねしてゐる、あしたはきつとよろこぶだらう」といふてお土産物をおいて行つて下さるよ。」

と母様がお仰つしやいました。兄妹は、お爺さんはナゼ寝て居る子供がお好きなのかと聞きました。

母様は兄妹にいろ〜お話しして下さいました。然し兄妹はどうしても遇ひたいと思ました。いつも寝る八時が鳴りました。母様は兄妹をお寝かせになりました。しぶ〜「おやすみ」して兄妹は床に入りましたが、眼はパッチリとあいてなか〜寝られません。春子は小さい聲で申しました。

「兄さん〜、お爺さんは、マダ來ないわね」

「春チャン僕も眼をあいてるよお爺さんはまだやつて來ないね來たら知らしてあげるよ——」

と申ました。硝子窓の邊から來るかもしれないと兄妹は見つめて居りました。然しいつまでたつてもお爺さんの姿は見えません。只三つ星がキラ〜光るばかりでした。春子はいつの間にか寝入つてしまひした。一郎はお爺さんが來たら起してやらうと思つてゐました。がお星様がピカ〜まばたきするごとに太郎の眼はだん〜細くなりました。とう〜兄妹はスャ〜と寝てしまひました。

＊＊＊

母様のお聲で飛び起きた兄妹は、枕許にお爺さんのお土産物を見て「アラ〜とう〜今年もお爺さんに遇ひそくなつちやつた!!」と申ました。

世界中の子供は誰れ一人サンタクロースのお爺さんに遇つた者はありません。ほんとにどうしたら遇へませう?!

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

最も力を入れる

除夜の敎へ

—其の他は萬も日頃の通り—

淺田みか子

□**常の日課通りに**

迎年の準備、それは心にも生活の上にも必要です。けれども私共の家庭には、年末だからつてさう忙殺される様な心配は無いのであります。私は常に物質は勿論、時間も勞力も凡て經濟を重んじて居ります。一週間の中どの日は何とちやんとする仕事を定めておきます。土曜日は順々一部屋なり二部屋なり大掃除をしますので、暮が來ても正月が來ても、私には其一週間が繰り返されるのみで、大騷ぎして煤掃きするなどと云ふ様な事はありません。親類同志はお互に贈答をしない約束をして實行して居りますので、其方の心配も更にありません。子供が休みになつて家庭の中が明るく賑やかになるといふ位が、私の家の變化でございませう。子供の爲には凡ての運動具にせよ、樂器にせよ、好むまゝに與へますけれど、着物や裝飾品にはあまり金を費さない主義です。

□**門松の代りに**

あの正月の度に飾る門松は僅かの後に燒かれてしまうもので極めて不經濟だと考へられます殊に竹も松も高く、手間賃も高くなつてます。私共位の門でしたら、それにつり合ふ飾りをしたならば、かなり高い事です。私はそれをしない爲に、家を建てる時門の兩側へ二本、小松を植えました。それは年中門松として綠の色濃く　今日ではかなりの大さになつてしまひました。正月は、其平常の門松にしめでも飾る位なものです。

□**歌留多はかうして取る**

私の家は子供の自由で、運動の家であり音樂の家であります運動も家庭としてはかなり設備をしてありますが、かるたゞけは感心しません。疊を叩いて埃を吸つて、胸を壓迫してるのですから、此上毒なものはないと存じます。それで私は正月だけは許しますが、他は許しません。それも大きな卓の上へ並べ、椅子に依つてする様にしてあります。

□**除夜の反省**

私が正月に一番力を入れて行つてる事は、あの除夜の夜に、凡ての子供等を集めて、今年一年中にして來た印象について問ふたり考へさせたりする事ですそして去年云つた事が行はれたかどうかを問ふて見ます。今年は斯うした方がよいと思ふ事を方針として、しつかり掴ませる事を努力して居るのでございます。これは私の家の除夜の敎として、永年實行して來て居ます。

十四

お化粧問答

問　顏を洗ふには、石鹼と洗粉と糠の内、どれが一番肌に効目がありますか。（本鄉政子）

答　お化粧には先づ地肌を整へるのが一番必要であると云ふ事が、近來一般に知れ渡りましてから、其の美身料として石鹼、洗粉、糠の内、どれが一番よいかと云ふ事に就て、大分議論があるやうですが、此の是非は極めて明瞭な事で、殆ど議論の餘地もありません。即ち、石鹼は垢を落すと同時に、皮膚の脂肪を取り過ぎる缺點がありますから、日本人の様な脂肪分の少い、殊に御婦人やお子供衆の弱い皮膚には頗る不適當でございます。夫から一寸考へると、糠は適當な美身料のやうですが、質は粗いと云ふ缺點がございますから、決して理想の美身料と申すことは出來ません。此點へ行くと日新科學の精粹を盡して精製された彼の日本名物クラブ洗粉のやうな高級洗粉が一番肌に適當して居るので、クラブ洗粉は獨特の衛生的美身劑と貴重な香料とを配合してありますから地肌を整へ、天然美を發揮する點に於て、何なる上等の石鹼も牛乳も到底之に及ぶことは出來ないのでございます。

問　お友達がクラブの乳液を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

正月の重詰

時節柄簡易に

手塚かね子

□初重吸物清汁

△取り合せ　紅白しんじよ、糸三葉、敷紙海苔、

△料理法　紅白しんじよは平目魚又は何にても、白身の魚の骨をぬき、皮を去り、よくたゝき、次に鉢に入れて摺り、十分の一位の長芋をおろして混ぜ、手まりなどの様に丸くつくねて一寸茹でます。茹でます前に、魚の摺身を二つにわけて一方に食紅を少々加へて薄桃色になし、紅白の二品を作ります。

糸三葉は細き三葉を洗ふて沸湯で茹でます。水氣をしぼつて一寸位に切つて二品とも二重につめておき、お客様のあるとき椀に盛り、用意してある清汁を盛り、海苔を焼いて敷紙形に切り、二枚ばかりうかして出します。

□二の重口取物

△取り合せ　松葉羹、ころ柿さゝ波巻、手綱蒲鉾、

▼松葉羹　寒天一本、砂糖五十匁、水三合、さつま芋五十匁、引茶少々。

最初薩摩芋の皮をむき、薄く輪切りにして二三時間水に浸し、灰汁をぬき、茹でゝ裏漉しにします。別に水に浸しおきたる寒天を小さくちぎりて水と共に鍋に入れ、木匕にて混ぜながら煮る、よく天のとけたとき、砂糖を加へ、煮立たせ、一寸水漉にて漉し、ごみを除き、再び鍋に入れ甘藷の濾したるものを加へ、よく溶かし文火にてよく練り、とろりとなりたる頃引茶を少量の水にて溶かしたものを加へます。甘藷の黄色に引茶を入れますと、緑色となり、美しくなります。それを重箱なり、流し箱なりへ流し込み、よくさまし固つたとき一寸角位に切ります。

▼ころ柿　はへたを去り、さいて種子をとり出し、淺草海苔を上にしてくり〳〵巻き、小口より切り、附合せます。

▼手綱蒲鉾　に蒲鉾の上等品を用ひ、一寸沸湯をかけて布巾にて水氣をふき、厚さ二分、長さ一寸二三分、巾七分位のものに切り、眞中の部分を兩端を切り離さぬ様切目を入れ、くるりと一端を切目に入る様にひつくりかへすときは、手づなの様になります。このまゝ盛り合せます、

□三の重甘煮物（丼、中皿類）

△取り合せ　松風章魚、玉菜巻若竹、慈姑梅もどき、

▼松風章魚　は生のまゝよく鹽にてもみ洗ひ、ぼつ〳〵に切り、水、砂糖にて軟らかく煮ます。醤油をさしてから一寸煮て火よりおろし、汁のみをよく煮つめ、とろりとしたとき、再び章魚を入れ、ざつと煮ておろし、皿に出して煎りたるけしをふりかけ、盛り合はせます。

▼玉菜巻若竹　は玉菜の葉を一枚づゝにはがし、ざつと茹で、堅きくきを去り白身魚又は芝海老をたゝきたるものや鷄肉等、何れにても直徑一寸位の太さに巻き、木楊子にて止め、鍋にならべ味淋出汁、醤油にてあつさりとおいしく煮ます。楊子をとつて小口より適宜に切り、若竹の小口切の様に見せて盛り合せます。

▼慈姑　は小さいものを撰び、四つに切りくるりと皮をむき、丸くして茹でます。次に出汁砂糖にてとつくり煮て、おろし際に醤油を入れます。つまり甘煮にするのです。以上の品を適宜に重詰にするのです。

□與の重、酢の物、（丼等へ入れおく）

▼若菜　は水に浸けてよく洗ひて適宜につみ、赤貝は貝より取出し、腸をとりてよく洗ひ、薄くへぎます。おろしを作り、水をしぼり、三杯酢をかけ、此中へ右の二品を和へます。

おせちとして黒豆、數の子、田作、午蒡ちよろぎなどお皿に添へます。

附けると色艶が良くなると申しますが、クラブ乳液ってどんなものですか。（芝　きみ子）

答　クラブ乳液と云ふのは歐羅巴の美人郷として有名な維納の或る皮膚科學の大家が發明された純植物性の美身液を主要原料とし、更にクラブ洗粉本店獨特の美身劑と貴重な香料とを配合して精製した濃厚な乳状の白色美身料ですが、之を皮膚に塗りますと、直ちに氣孔に吸收せられ、皮下奥深く透入して皮膚の滋養となるのみならず、乾風や大氣中に充滿して居る塵埃や煤煙の刺戟に對して皮膚を保護する作用を有つてゐます上に、其の香ひが如何にも柔かで上品ですから御婦人は申すに及ばず、紳士間に近來非常に賞用されて居ります。

十五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

流行性養生法

無精では健康は得られぬ

斬雲

口養生法の數々

近來の樣に養生法が後から〳〵と新を競ふ如くに唱へ出さるゝと、帽子や洋傘やショールなど、同じく、時々の流行物でもある樣に思はれて、一向賴りない、却つて危險なものになつて了ひます。試みに此の十年來唱へ出された養生法を數へて見ると、深呼吸法、サンダウ鐵唖鈴、催眠術、マッサージ、腹式呼吸、靜座法、謠曲、玄米食、電氣按摩、ラヂユーム、朝鮮人參などが其の最たるものです。

此の他にも、抵抗養生法だの、乾浴長生法だの、河合式强健法だのといふ大して流行せざるものを數へ立てると、隨分澤山になります。

口商賣的特質

以上の養生法が其始め唱へ出される時、素晴らしい勢ひで現はれ來ます。是一つあれば、人間は請合つて健康體になり、强壯無比な人間になれると言つた言ひ觸れで、從來の藥品も醫者も滋養物も全然不用に歸するのかと思はれます。兎に角、唯一なる最上級の效能書きで流行するのです。併し、忽ちの中に流行が廢れて、やがて次の萬能養生法に位を讓るのです。人體根本の養生法が內閣の交迭よりも頻繁に代謝するに至つては迷惑千萬な次第です。而して斯樣な養生法に附隨する二つの特徵があるのです。夫は商賣的な事と、無精者に好かれそうな事との二つです。敢て其の主唱者を誹謗する考はないのですが、其の多くは世人の爲めに漠然と商賣らしく思はれる樣になつた事は事實です。主唱者は大眞面目の樣ですが、社會は之を一種の商法として受取る樣になつたのです。深呼吸と腹式呼吸は誰れにでも眞似が出來、資本要らずだから然して商賣氣を帶ばなかつたのですが、其他は多く商賣の廣告かと異まれます。

口懷手で達者になれない

又「無精者に好かれそうな」といふ意味は、以上の諸法には、何處やら、しるこを食べて胃散を頬張る樣な趣がある事を言ふのです。之を信ずる人は、餘程蟲の好過ぎる御仁です。養生法の極意は、不養生をせず、身體を大切にし、そして額に汗して食ふの敎へ通りに、びつしより汗を流す運動をする事なのです。處が出來る丈け無精に、骨を折らずに、金魚が水を呑む樣な深呼吸と來る、欠伸の稽古の催眠術と來る、ラヂユームだ、電氣だと來る、それでは居ながらにして懷手で達者にならうといふのです。若くは骨が折れて一向面白味のない鐵唖鈴や、誰某式の徒手體操然たる强健法と來る。何れも精神を快活にする事を忘却して、解剖的、生理的、化學的に走るのです。

口小兒らしく運動せよ

養生も健康も、精神作用が主です、精神作用を閑却した養生法に何れ程の效果がありませう。氣がさつぱりする樣な興味を伴はない養生法は、到底永續する事が出來ません。人參や、ラヂユームで、健康を製造しやうといふのは無理です。餘り人間が無精になり、横着になり、慾が深くなると、狐や狸に誑らかされます。終日家に引込んで屈托して居ては、ラヂユームや人參を浴びたとて効がありません。日本婦人も戸外に於て氣の晴れる且つ汗の流れる運動をした方が好いのです。然うすると終生小兒の樣な若々しい心持で顏も若やいで居られるでせう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

彼と彼女の心（八）

久野恭子

「なんていふ恐しいお嬢さんだらう。」

奔放な熱情を有つた菊子がTに對しての態度を斯う言つて批難した周圍の人達は、其度毎に菊子の友達の藍子を、比較に持出す事を忘れなかつた。

「藍子さんはおとなしいから。」

其人達よりもより多くの親しみに基く同情はもつてゐても、菊子の戀愛事件に對しては如何しても批難とさげすみを心の衷に禁じ得なかつた藍子は、自分が娘としての愼しみを忘れない事に對する周圍の賞讃を、當然の事のやうに思つて居た。さうした過去の事柄や心の過程に面を向けて、藍子は苦笑した。

「エヽ、おとなしいお嬢さんでしたからね。」

けれども唯單におとなしいといふ事は、どれ丈人間としての大切な要素である所の眞と正しさとを意味して居るであらうか？。

菊子の行爲には間違ひがあつたかも知れない。それ丈に醜さも多かつたかも知れない。然し彼女の醜惡なうちに含まれた一筋の純粹な眞は、ドンファンのやうなTの心を動かして、盡すべき責任を回避するといふ醜さから彼を救ひ出した。Tと菊子の結婚を聞いたTの友人は斯う言つた。

「嘘から出た眞だね。」

始めから意識して掛る嘘程恐しいそして不道徳なものはない。其恐しい嘘を眞に直させるには其處にそれ丈の非常な力がなければ成らない筈である。衆人の冷笑と批難の下に凡てを投出した菊子は、彼女の血と涙をもつて至難な彼女の寶玉を贖ひ得たのである。藍子は菊子がTと結婚する前の悲慘な生活を思ふと憐みに堪へなかつた。Tの人格に信用が拂へないのと、餘りな思切つた娘のやり方に呆れた菊子の親達は、一つは世間への手前、一時菊子を家へ置く事を許さなかつた。彼女はそれでも親心から表向きは父親が知らない事にして、母親の手から送られる幾らかの金で、或西洋洗濯屋の二階を借りて住つて居た丁度Tは國へ歸つた時だつたので、寂しい惱ましいそしてまた賴りない菊子の心は、藍子が訪れてやるのが唯一つの慰めであつた。

「あんな者とは交際をするな。」と言はれてあるのを藍子は苦心して時折訪ねてやつた。

「もうお金がちつともないのよ。爲替の來方がおそくつて。」

そんなに貧しい家の娘でもないものが、こんな生活をしなければならないとは餘りに可哀想な事だと藍子は思ひ〳〵した。其頃から菊子の親達と同じやうに、Tの爲人に信用が置けなく成つて來た藍子は、時々菊子に其事を話して菊子を怒らした。欠陥の多いTの性格や行爲に對する藍子の觀察は誤つては居なかつた。が愛する者にして始めて見得る人格の貴さがあるといふ事は眞理である。傍から見ると惑溺した愛の故に誤つて居ると見えた菊子の方が、他よりもより近く正しくTを理解し、他には見えないTの内に潜める良心に基く道徳性を、菊子の愛の力は感じて認識し得たのであらう。藍子が菊子とTの事を話して歸つた後、彼女は菊子からの手紙を受取つた。其中の一句の「私を救ふものは唯々Tのみに候。」とあるのを讀んだ時、藍子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の心は頷かなかつた。頷かないのは「あぶなつかしい救ひてだ。」と思ふ心もある、がもう一つ藍子に解らなかつたものは、夫程迄に思ひ込む菊子の心持であつた。「我を愛ひしむる者の外に、誰か能く我を救ひ得んや。」と云ふ言葉が藍子の心の内を通りすぎるやうに成つた時、彼女は菊子の此手紙を思ひ出した。そしてそれに對して冷かであつた自分の心を振り返つた。

藍子は斯うした物の中に浸つて、傍に道三の居る事も忘れて了つて居た。そして

「お嫂さん喉が乾かない？。」と言つた道三の聲に驚かされた。

「エヽ、お茶を呑んでも可いわね。」彼女は斯う言つて丁度來懸つた風月に入つた。二人は向ひ合つて椅子に掛けると、何ともなしに微笑み合つた。

「あの菊子さんて云ふ人ね、眼の美な人ですね。地方に居るんですか。」

「エヽ、結婚した事丈は聞いて、それからちつとも音信がなかつたものだから、解らずに居たのよ。赤坊可愛いかつたのね。」

「ウヽ、ニコ〳〵笑つて。」

二人は斯んな事を話し合ひ乍ら紅茶を呑んで居た。道三は何か思ひ出したらしく頻張つたカステラを呑込むと忙しく口を切つた。「御嫂さん、兄さんに話していらしつたんですか？散歩するつて。」

藍子は道三の皿の中のカステラの粉を見詰めて默つて首を振つた。

「じやあ、何處へ往つたと思つて待つてるだらうな。」

「待つてなんかは居りはしなくつてよ。」

彼女は斯う言つた後急に激しく、家へ歸り度くでも成つたかのやうに、椅子を立上つた。道三は夫を見ると笑ひ出した。彼はもう一片のカステラの半を丁度取り上げた處なのであつた。

「御嫂さん、僕あ未だ喰つてるじやありませんか。」

十八

まろき心

安中花子

欲りすれどかへす術なき其かみのまろき心ぞたふとかりける

うつゝなの思を載せて我が小舟ひた走り行く命の小舟

此まゝに明日につゞかむ今日としもおもほへぬまで心ときめく

黒かみの唯一筋の落ちしにも涙ながれぬわびしき日かな

新刊紹介

ロレデース、ブツク（手塚かね子著）婦人方の常識修養書として、親切に凡ての事を網羅したもので、食卓禮儀あり、簡易料理あり、家庭菓子の製法あり、且つ四十二頁に亘り、家事の執り方を趣味的に書かれてある邊りは、飽かずに、若い娘さん方が家事を習ふ事にもなる、誠に有益な書物であります。年末年始の贈物として好適なものでありませう。（定價八十錢神田區駿河臺鈴木町十六佐藤出版部）

傾聽す可き言葉（六）

愛城生

「此くも麗はしく飾られ、此くも樂しき光の輝りわたる自然に包圍されながら、故意に俯向き、目を閉ぢて、己が一生を送る人こそ實に憐れむ可きである。四方八方に充滿する此の美觀に目を注がず、絶えなる此の音樂に耳を傾けず、自分勝手に造り出したる陰鬱なる小天地に一生を送る人こそ、眞に不幸且つ禍なる人である」

ヘンン、ケラ

聾啞であり、盲目であるヘレン、ケラの言葉として、眞に味ふ可きである。此一生を樂しき天國となすも、苦しき地獄となすも、之に一に各自の心如何にあり。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時事

□伏見宮邸行幸　天皇陛下には十三日午後伏見宮へ行幸、平福百穗畫伯の揮毫を御覧あり、永田錦心の琵琶、活動寫眞等に御興をやられ、七時三十分還幸遊ばされました。

□二萬圓御下賜　實業家發企の天津水害救助會に對し、十二日、兩陛下より金二萬圓御下賜相成りました。

□天城へ御出獵　朝香宮、東久邇宮兩殿下には、十七日朝東京驛發、天城山に御出獵相成り、廿日御歸京の御豫定です。

◉露獨講和會議開かる　伯林公報によれば、露獨間の休戰條約は十五日を以て締結され、十六日より一月十四日迄、露獨全戰線に亘る休戰實施されます。而して更に單獨講和會議も亦直に開始されますと。

◉航空會議終る　所澤に於ける航空會議は、十八日を以て終りましたが、今期大演習大飛行の失敗は、當日二十米突内外の强風なりし事、操縦將校の技術に多少の遺憾ありし事、發動機の故障の三點に原因するものと大體の意見は決りました。

◉青山博士男爵を授けらる　十四日青山胤通博士危篤の報天聽に達し、多年醫界に貢献せる功勞を思召され、特に男爵を授けられました。

◉羅國特使客死す　先頃來朝後二箇月ならずして腎臟病に冐され、築地聖路加病院に入院治療中でありました羅馬尼特使ニコラス、セーボール氏（五十六歳）は、十六日手術を施しましたが終に十八日午前十一時逝去しました。

◉百萬圓の獻金　船成金として知られた山下龜三郎氏は、十七日首相に對し、國防費とし金百萬圓直納獻金を願出でましたが、十八日閣議は之を受理する事に決定しました。珍らしい美擧であります。

◉聖地回復感謝祈禱會　聖地エルサレムは土耳古に占領されてゐましたが今回英軍が土兵を驅逐して再び之を非耶教徒の手に復す事が出來ましたので神田駿河臺の正教會では十六日午前十一時感謝祈禱會を擧げました。

◉渡米議員團歸朝　政尾、望月、山根、島田、植原の五渡米議員は米國到る處大歡迎を受けて、十四日加奈陀丸にて橫濱着歸朝しました。

◉飛行界　△岡大尉は十三日午前九時四十分モ式七號に搭乘飛行中發動機に故障起り、遂に松林中に墜落し、機體は大破しましたが大尉は無事。△特別大演習の際飛行の大失敗原因に就ては當局者が研究の歩を進めて居りますが十三日には失敗者の一人なる益滿中尉を召集して當時の實況を聽取しました。調査の結果は近く公表されるとの事です。

◉職に殉せる醫學士　日本赤十字病院傳染病室醫員醫學士田村政太郎氏は、同院入院の傳染病患者三十名の治療診察の傍、實驗室にありて專ら各種傳染病菌の試驗に從事して居りましたが不幸十一月七日發病し、室扶斯となり、十二月十一日逝去されました。享年廿八。

◉土から鐵を採る　內務省大阪試驗所長藥學博士平山松治氏は酸化鐵分を含む土砂に、或種の化學作用と藥品を混和し、乾燥せしめた上、電氣爐に掛けて熔解し、更に感電せしめて鋼鐵板を作る事を發明しましたので、その方法に依る製鐵會社を設立するそうです。

◉花の日會の托兒所　花の日會では來春を期し、月島に第一托兒所を設け、二年以上五年未滿の細民の子供を預り、一定した衣服を給する事など決定した由です。

◉大隈侯八十の祝ひ　大隈侯八十歳のお祝ひは十六日芝紅葉館に催されました。

◉新學士院會員　十二日の學士院例會にて法學博士小野塚喜平次氏は同會員に當選しました。

◉一大彗星の出現　獨逸の天文學者ウルフ博士は、最近に於て彼のハレー彗星よりずつと大きい彗星が現はれた事を報じたと申します。その彗星が西北の空に薄い光體となつて現はれるのは、此の冬中で、一番大きな光りを發するのは來年六月頃であらうと云ひます。

◉大阪朝日懸賞小說　大阪朝日新聞社が新築記念として新聞小說の懸賞募集をし露伴、谷庵、藤村三氏の審査の結果一等（賞金一千五百圓）は「明けゆく道」の作者野村愛正（廿七歳）二等（賞金七百圓）は「宿命」の作者三田統一教會の副牧師沖野岩三郎氏が當選しました。

◉高田畊安博士園遊會　廿五日クリスマスの祝賀を兼ね、相州茅ケ崎南湖院に於いて、第十七回醫王祭、第十九回看護婦卒業式を行ひ且つ博士夫妻の結婚後廿六年の感謝をも加へて、懇親園遊會を催す由、それ〴〵招待狀を發せられました。

◉無妻主義博士の婚約　東北理科大學教授矢部長克博士（四十歳）は無妻主義者でありましたが今回仙臺の金物屋奥田なる人の長女こう子（十七歳）と婚約が成立したと申します。

◉山田耕作氏の渡米　音樂家山田耕作氏に自作の管絃樂、すべてを發表する爲め、十七日横濱出帆のペルシャ丸にて渡米しました。

◉櫻楓會の營つた慈善市　日本女子大學の卒業生より成る櫻楓會は、十五日午後三時から、家政學館階下に日用品の市を開き、掘たての大根、牛蒡より、砂糖石鹸、干魚など、凡て一般店頭よりも安値にして賣りましたので、忽ちに賣り切れて終ひました。追つて この種の市を續々行

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ひ、主婦の買出しに行く習慣を養ひ、一方その利益を以て託兒所等の慈善事業に用ふる筈です。

個人消息

▲根本いよ子　代議士根本正氏の令嬢いよ子（廿二）は、今回鐵道院奉職中のドクトル關屋氏と婚約成り、廿二日　銀座教會に婚儀を擧げ、關屋氏は入つて根本氏を繼ぐ筈です。新婦は東洋英和女學校出身にて、基督教主義禁酒禁煙の家風を繼ぐに足る人を求めて、遂に關屋氏を得たのであります。

▲茅野雅子　姑君を失ひ、郷里信州に歸省中。

新刊紹介

□爐邊（安中花子著）姉も妹も父も母も一緒になつて讀んでも困ることのないやうな家庭向の讀物のないのを嘆いた著者は、西洋のお話の書物を漁り、自作をも加へて十三篇の面白いものを集めて、この書物を編まれました。情趣に富んだ著者の筆は何れも面白く讀ませます。良いお話の本の少い我が社會に、この書の出版を眞心から歡迎いたします。（定價六十錢、京橋區明石町八日本基督教興文協會）

□新少女（新年號）見て居るうちに云ひ知れぬのどかな氣分になる「花ことば双六」を添へてあります。羽仁もと子夫人の少女の質問に適切な答へを與へたるを初め、何れも精選された記事で滿されて居ります。（一册特價十五錢東京雜司ヶ谷上り屋敷婦人之友社）

□主婦之友（新年號）家運繁榮號として、開運獨占ひの附錄を附し、逆境に處して運命を啓いた實例、私は斯うして幸運を得ました等の有益な記事や、岡本綺堂氏の小說七面鳥等、卑近にして實益ある記事を滿載して居ります（特價四十錢神田區表神保町二家政研究會）

□講談俱樂部（新年號）、新裝したる同誌は、一流の講談を滿載して、千紫万紅の趣きがあります。（一部四十錢郵稅三錢本郷區坂下町講談社）

編輯室より

▲好晴つゞきのこの暮は、世間の稀れなる景氣に一段のかゞやかしさを添えて、戰爭も、物價騰貴も思はぬ如く見えますのは、誠に結構なことでございます。▲この發展がどうかいつ迄も續くやう、内容の充實を圖る事が、國を思ふ者の取るべき道でございませう。私共はあわたゞしい中にも、クリスマスを迎へて、しんみりと精神の糧を味ひたいものでございます、▲年中週を追ふて走つた本誌も今年はこの號を限りと致します。さらばわが讀者の君方更らに幸多き新年を迎へられんことを。

常食にも適當な
植物ミルク

六回分　拾貳錢

三十回分　五拾錢

蛋白質に富み消化を助けますから一ヶ月も續いて召し上がると見る〳〵顔色がよくなります。

婦人週報社取次

弊店の特色

御召　織式　縞染

△古手物モ新規同樣ニ相成候

△出來期日ハ最モ正確且ツ迅速ヲ旨ト致シ候

△御註文ノ際ハ御一報次第早速店員御伺御用命ニ應ズベク候

中澁谷六百十八番地

（玉川電車通西郷邸前）

百足屋染物店

平田孫太郎

人事相談所

□本所は婦人週報社の附屬事業として、世の煩悶に惱める男女に同情し、精神上、生活上、其他有ゆる相談に應じ、最も善き解決を與へます。

□本所は絶對秘密の下に、結婚調査、人物調査、財産調査、男女學生品行調査、裁判上の證據調査等の御依賴に應じ、親切と誠實を以て其の任に當ります、但しこれは依賴者が至當と思はれる程の低廉な調査料を申受けます。

□本所に御相談なされたい方は、書面にて申越されるか、若しくは直接面會に來て下さい、面會時間は日曜水曜を除くの外午後零時より、午後四時迄です。

東京牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地
婦人週報社内（電話番町四五六六番）

人事相談所

婦人週報
（毎週金曜發行）

定價表

△壹部金五錢（但し郵送料五厘を含む）
△一ヶ月（四部又は五部）金二十錢
△三ヶ月（十三部）金六拾錢
△半年（廿六部）金壹圓拾錢
△一年金貳圓廿錢

廣告料

△特等（表紙の二、四）金參拾圓
△壹等（表紙の三、白紙前付）金廿五圓
△貳等（色紙の表側）金廿貳圓
△參等（色紙の内側）金貳拾圓

注意

▲御註文は一切前金の事▲郵券代用は必ず一割増の事▲送金の爲替名宛は東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地婦人週報社▲振替口座は東京三一六六〇番▲雜誌發送を以て領收書に代ふ

編輯兼印刷人　小橋三四子
東京市京橋區銀座四丁目一番地
印刷所　福音印刷株式會社
東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地
發行所　婦人週報社
振替口座東京三一六六〇番
電話番町四五六六番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時日　大正七年一月三日ヨリ同十日マデ

會場　東京市神田區北神保町十四番地　女子青年會館

申込期限　大正六年十二月二十五日限

入會資格　現ニ外國人ニ日本語ヲ教授セル方
將來外國人ニ日本語ヲ教授セントスル方

講師　東京高等商業學校教授　ガントレット氏
私立日語學校教師　松宮彌平氏

會費　金十圓

寄宿　地方の方には寄宿の便を計ります
宿泊料一日金壹圓

●日本語教授法講習

詳細御照會次第御返信可申上候

趣旨　實驗を基礎として組織し多年これを實際に試みて良好なる結果を收め、今日の所、最適當なりとの自信を有する教授法を極めて實地的に講習せんとするものにして、之が普及によつて日本語教授界の缺陷を補はんことを期す
敢て有志の入會を希望す

贊助　ジー、エム、フィクシャー、ビショップ、マキム、ミス、エム、エル、マシウ、エー、オールトマン、シー、ピー、テニー、イー、チー、アイアルハート、デー、アール、マッケンジー、ミス、エ、シー、マクドナルド、セー、エッチ、ベテー

東京市牛込區市谷田町二丁目二十二番地
松宮方
日本語教授法研究會

入會申込所

○入會申込ハ便宜東京市牛込區市谷田町二丁目十七番地
婦人週報社(電話番町四五六六)へ申込マレタシ

齒科診察

府下千駄ケ谷町五百六十三番地
齒科醫學士　大久保透

シンガー裁縫院　生徒募集

●和洋服刺繍(東京有樂町一ノ五)
●ミシン專修　●毎月五日迄入學

大學青年會醫院

診察　午前九時　正午　午後六時　九時　但シ日曜祭日ハ休

本郷區追分町五十三番地
電話小石川　一七七八番

醫學士　河田茂
醫學士　藤本武平次
顧問各科醫學士數名

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

診察毎朝及毎夕但祭日及日曜之他
院長診察　月、金、木午前及(木)午後六時
林、鮭間兩副長は目下當院に在勤
東京三番町三十番地（市ヶ谷見附内）
電話番町 六二一番
東洋内科醫院
院長 醫學博士 **高田畊安**
電話ちがさき二番
南湖院
神奈川縣茅ヶ崎海濱（從停車塲半里）
河野、高橋兩副長は目下當院に在勤
院長診察 土曜日 午後入院診後應需
診察毎朝但祭日及日曜及土曜之他

大黒天印
赤 白
宮崎葡萄液
宮崎葡萄液ハ「アルコール」分ヲ含マズ最モ滋養ニ富ミ上戸ニヨク下戸ニモヨシ御婦人御子供衆ニモヨク頗ルオモシロキ理想的好飲料
大小數種化粧箱
商品切手調進仕候
東京市日本橋區通旅籠町
宮内省御用達
發賣元 **甲斐產商店**
電話浪花八七〇、八七一

耳鼻咽喉科專門
大野醫院
院長 耳鼻咽喉科 大野喜伊次
（入院隨時）
東京京橋區南鍛冶町廿七
電話京橋一〇三五

◎**產婦人科**◎**小兒科**
宅診午前 往診午後
病室、產室ノ設アリ入院ノ需メニ應ズ
院長 女醫 **吉岡彌生**
東京市麴町區飯田町四丁目卅一番地
電話番町 二三五七
東京至誠病院

英語生徒募集

高等女學校卒業生に適當の各級あり又年長者にして英語初歩より學ばんとする者にも懇切に教授す　（「ピアノ」個人教授ノ需めに應ず）

英語專門私立 **櫻井女塾**
本郷區彌生町三番地（電話下谷六八一五番）

家庭衛生講習會

一、目的　家庭に必要なる衛生及衛生マッサージを教授す。
一、場所　赤坂區新町三丁目四十六番地婦人矯風會本部内。
一、期間　自一月十六日至二月十五日月水金午時二時より四時迄。
一、講習科　金十圓也前納の事。
一、人員　十名を以て定員とす。
一、證書　講習修了者には修了證書を交付す。
一、特典　講習修了者は會員として隨意に傍聽又は研究する事を得。
一、主催　婦人矯風會本部。
一、講習主任　醫師藤井孝。
右御希望の方は至急赤坂區新町三丁目四十六番地婦人矯風會本部（電話芝一七五三）に申込まれたし。

產科、婦人科、小兒科
東京府内藤新宿番衆町卅一番地
女醫 **井出茂代**
電話番町三六七七番

松下皮膚科醫院
○診察、午前、夜間
○京橋南八丁堀櫻橋際
（電 京 一二二三一番）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御註文の節は婦人週報にて見たる旨御記入を乞ふ

講談倶樂部

大飛躍 新年號 の光彩

◎吉原情話 **契情大盡**（新講談）武田鶯塘

◎切支丹女 **お艶殿**（新講談）……前田曙山

◎戀の綾糸 **春の流**（新小説）……佐藤紅綠

◎多情多恨 **花散る里**（挿畫小説）……青柳紫水

◎毒婦惡漢 **寃罪**（探偵小説）埋木庵

▲脚本 日蓮 赤塚悅嗣

▲佐野の雪 和田嵐舟

特別大懸賞募集

◎巡る因果 **微笑**（寫眞小説）高木靜光

▲篠島情話……久富竹外

▲いろ文……吉岡鳥平

◎滑稽諷刺 **角丸問答**（對話）……伊井蓉峰

◎奇々怪々 **六號室**（新小説）……渡邊霞亭

◎戀愛奇談 **海中櫻**（新講談）……江見水蔭

◎滑稽纏持 **角左衞門**（新講談）本田美禪

■ **忠馬塚**（新講談）大河內翠山

▼酒傑の譽 **拜領の太刀**（講談）……半井桃水

▼少年教訓 **夜光の魂**（お伽噺）……萩野露助

▼ **白井壽美代**……流浪の子

▼ **樂燕と雲右衞門**……田中薫骨

▼ **歌舞伎座追善劇**……矢野葩瘦

春興上方唄 貫一

鳥邊山心中 白雨

●年首歳末漫畫……みのる

●新橋怪談……くん風

●一月行事……田代曉舟

●九星運氣……山本正生

●浮世珍聞……しすゐ

●俳句成蹟番付……まつほ

▼ **根津權現由來記** 夢想兵衞

▼竹本 **攝津太夫**……中川愛氷

▼ **尾上菊五郎**……矢野葩瘦

▼島原騷動 **天草四郎**（浪花節）宮崎滔天

▼馬術名人 **筑紫市兵衞**（講談）……阪東太郎

■ **三百餠**（落語）松廼家綠

定價 本號限り 金四拾貳錢 郵稅三錢

東京本郷駒込坂下 講談社發行 振替東京二六九六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御注文の節は婦人週報にて見たる旨御記入を乞ふ

新版愈發賣

日本女子大學教授 手塚かね子女史著

レデース・ブック

布裝美本全一冊
正價金九十錢
郵税内地八錢

本書は手塚先生が淑女の心得て置くべき家事上の一切を面白く趣味的に物語風に書かれたるものゝ主婦の讀物としても令嬢の伴侶としても近來にない出色のものですその上に食事上の禮式や和洋料理の仕方から菓子の製法まで手を取つて教ふるやうに親切に説明したものが添へられてあります

上欄目次

食卓禮義
簡易料理
春の部
夏の部
秋の部
冬の部

下欄目次

家事上の一切
四十二項に亘る
家庭菓子の製法

東京市神田區駿河臺鈴木町
佐藤出版部
電話本局三一八五番・振替口座東京二九〇二九

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

發行所 東京市牛込區市ヶ谷田町二丁目十七番地 婦人週報社
電話番町五六六番・振替東京二一六八〇番

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA